

○岩手の復興と再生に向けた「岩手県水産試験場」釜石の取り組み

1. 実施日時 平成31年3月25日 13時55分～14時55分
2. 実施場所 岩手県水産技術センター（釜石市大字平田3-75-3）
3. 講師 県水産技術センター所長 阿部繁弘 氏、
同増養殖 部長 西洞孝広 氏
4. 研修テーマ
 - (1) 三陸沿岸の磯焼けの実態と磯焼けによる磯漁業への影響、原因の研究状況
 - (2) 磯焼け対策の取り組み経過と最近の取り組み状況と成果
 - (3) 県水産技術センターのつくり育てる漁業に向けた最近の研究状況
5. 講師、増養殖部長、西洞孝広氏の説明要旨

① 磯焼けの主なる要因として

- (ア) 環境変動により、海草発芽時期の水温の変化がある。従前より高水温の回数が多く冷水潮流の回数が少なくなっている。
- (イ) 水温が高いとウニなどの食欲が旺盛になり発芽昆布などの芽が食害となる。
- (ウ) 磯焼けが原因でウニの実入りの歩留まりが悪く、アワビも痩せアワビの原因となって漁家の減収の要因となっている。

② その対策として

- (ア) 15年前から昆布が生息海域の50㎡から発芽時期にダイバーでウニを移植する調査を行った。効果があったがその費用も多かった。
- (イ) ウニを移植しただけでは、昆布の発芽が思わしくないところには、海草の胞子を着床させたが効果があったが費用も多かった。
- (ウ) 天然海草の発芽時期にワカメより発芽時期が早いスジメを陸上養殖をしてウニに食べさせ天然海草の発芽、生育を促進する調査をしている漁協もある。
- (エ) 宮古市田老漁協では、3年計画で、大アンカー方式、小アンカー方式、民間の共和コンクリート工業と共同でモアシス方式を実証試験し、最も効果の良い方法を2020年度から導入する予定。

③最近の増養殖の情報

- (ア) アサリ、カキの外洋養殖実験をしているが良好であり、有望と思う。

(イ) 県南海域では、二枚貝の貝毒が早い時期から発生しているので、新しい海草養殖が安定した漁家収入に繋がるのではと思う。

6. 市民共同の研修所感（所感まとめ畑中勇吉）

- ① これまでは、天然の海底に自然に生育する海草を繁茂させるためにここ15年以上もいろいろな試みが行われてきた説明をいただいた。しかし、磯焼け対策で決定的な成果の報告が聞かれない。それは、対策の方法が良いとはいえないからではないかと思う。
- ② 区画漁業権で行われる昆布、ワカメの養殖は、それを、ウニ、アワビの餌としなくてもそれ自体を人間の食料として製品化することですべてが収入に繋がるわけである。養殖した昆布、ワカメ、スジメなどをウニ、アワビに餌として与える漁業の仕組みづくりを一体的に考えなければ問題の解決には成らないのではないか。
- ③ 今から50年前は、ウニ、アワビ、資源が沢山あったが、それでも昆布など海草の繁茂が負けないで多くあった。海環境が根本的に変化していると思う。そうしたことをしっかり捉えた対策が必要と思う。

県技術センター研修の市民共同議員

